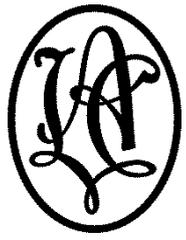


2017



J・A・C

(第41号)



平成 29 年 12 月 発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聰

事務局 〒283-0116

山武郡九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L 0475-76-9467

E-Mail 支部だより参照

(表紙の絵)「飛騨白川郷」

水彩画 小菅一弘 作 (敬称略)

盛大に創立 10 周年記念式典と祝賀会

多数の来賓、会員・会友が出席

記念式典

日本山岳会千葉支部の創立 10 周年記念式典と祝賀会が 8 月 26 日、船橋グランドホテルにて盛大に行われた。日本山岳会の尾上昇元会長、日本山岳・スポーツライミング協会の八木原罔明会長ら 11 名の来賓を招き、千葉支部からは会員 47 名、会友 9 名が参加した。

記念式典で、三木雄三千葉支部長から「よちよち歩きで始まった千葉支部も 10 年でようやく一区切り、次の 20 年で千葉支部も成人になる。その時にも元気で集まれるよう頑張りましょう」と挨拶。続いて吉永英明 10 周年記念事業実行委員長は「関東各支部と一層の連携を深めながら活性化を図るべき。また県内の山岳団体とも交流を考える時期に来ている」と述べた。

次に壇上に上がった来賓の尾上元会長は「千葉支部が設立されて育っていく時期に会長職だった



ことを考えると大変感慨深い。若年会員の獲得も各支部が知恵を出して仕組みを作り出せば、組織の新陳代謝は出来ると信じている」と挨拶。続いて挨拶した浅野勝己茨城支部長は「10 年前に栃木、茨城、千葉とほぼ同時期に関東で支部が出来、設立時から繋がりが深く縁を感じている」と述べ、群馬支部を含めた 4 支部の連携の重要性を話した。

記念講演「日本の氷河と山の姿」と 海外山行報告

記念式典に続いて、千葉支部会員の小疇尚・明治大学名誉教授により「日本の氷河と山の姿」と題して記念講演が行われた。



講演は、1930年代から議論のあった「日本の氷河論争」が日本山岳会の「山岳」誌上で一高生徒と小島鳥水で始まったという興味深いエピソードから始まり、GPSの利用により氷河の存在が近年になって証明されたという。穂高のカール地形とスイス・モンブラン山群、白馬岳の氷河地形とカナダの地形をスライドを多用して分かりやすく比較して見せた。谷川岳の一の倉沢で崖が抉られた形とパイン山群の氷河地形のパーツが同じであることなど次々話され、会場の全員が興味深く耳を傾けた。最後に小疇教授は「日本中に知られていない氷河地形がまだあるはず。千葉支部会員もぜひ探してみてください」と1時間の講演を締めくくると、満場の拍手を浴びた。

次に10周年記念山行として7月に行われたカムチャツカ・アバチャ山の山行報告が坂上光恵会員により行われた。

登攀中の写真ばかりでなく、足慣らしの様子やBCでの食事風景なども交えての報告は、今回の記念海外山行が充実したものであったことが窺われた。

和やかに祝賀会

引き続き会場を隣室に移し、10周年の記念祝賀会が和やかに行われた。6つのテーブルは「鹿野山」や「伊予が岳」など千葉の山名が表示された。栃木支部の石澤好文支部長代理による乾杯で始まり、途中から山のムービーや千葉の山のスライドなど上映された。各テーブルのあちこちで和やかな談笑が交わされ、2時間の歓談はあっという間に終わった。

(三田 博)



来賓
尾上元会長



吉永実行
委員長

千葉支部設立の思い出

篠崎 仁

首都圏に支部を創ることは日本山岳会にとって長年の懸案であった。2006年1月に平山善吉会長は首都圏の支部化を提言、同年6月の理事会で支部化促進委員会が発足した。それを承けて栃木、茨城両支部で準備が始まった。栃木は私のふるさとしてあり日光連山は我が山登りの原点なのでいざ栃木支部に入れてもらおうと考えていた。

2006年11月理事会の後、平山会長（千葉県在住）、平林克敏副会長より千葉支部を設立してくれとの依頼を受ける。“寝耳に水”、とはいえ千葉県在住の理事としては引き受けざるを得なかった。年が明け1月に有志による意見交換会を実施。東京に隣接するはじめての支部ということで、「本部の同好会、委員会の行事に参加しているから千葉に支部はいらない」、「拙速にことを運ばず1~2年ほどじっくり時間を掛けて進めるべき」という意見も出て侃々諤々の議論であった。さりながら、「たとえ10数名でもよいから栃木、茨城と歩調を合わせてスタートしてくれ」という本部からの強い要請は勘案せざるをえず、今年6月発足を目標ということで合意に至った。

栃木、茨城の設立準備会に出席させてもらい、またいくつかの支部長に設立に関する情報提供を依頼する。特に広島支部の元支部長種村重明さんからは、病気療養中にもかかわらず個人的なメモも含め多くの貴重なアドバイスを頂いた。（残念ながら支部設立のご報告は間に合わなかった。）

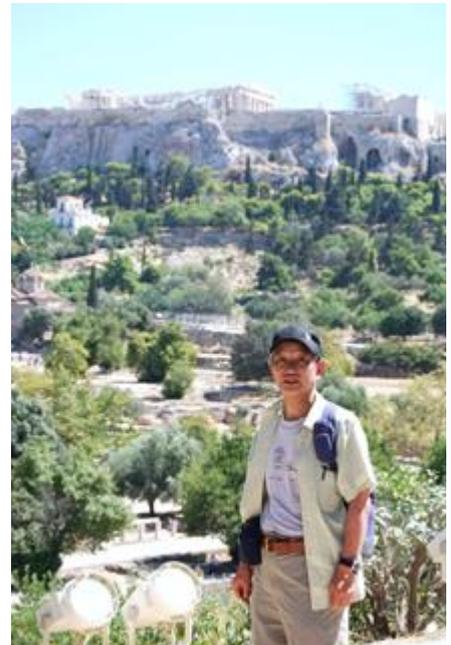
2007年2月、メンバー12人による発起人会を発足、ほとんどの人が「はじめまして」のあいさつで始まるという状況だったが、みな献身的に労を惜しまず準備を進めてくれた。元副会長芳賀孝郎さんに代表を、平山会長に顧問をお願いする。

正式に決定すると、途端に支部会員目標人数は50人に大きくアップされた。設立に向け一気に活動を開始する。名簿の整備、支部加入案内状の作

成・発送、加入促進の電話依頼、規約案・収支予算書の作成、総会会場の手配、総会案内状の発送、来賓のスケジュール調整などなど…。苦勞の甲斐あり、多くの皆さんが賛同・入会してくれ、結果101名の入会申込書が届いたときは発起人一同快哉の声を挙げた。

2007年6月24日、設立総会を京成ミラマーレで開催する。支部加入者数101名、総会参加者数61名であった。検討を始めて実質5カ月間での設立は、最短記録とのことであった。

*当初はやや及び腰でしたが、いま10周年を迎え活発な支部活動が展開されていることを「千葉支部だより」を通じて目の当たりにすると、設立のお手伝いできたことをあらためて大変うれしく思っております。



《アテネ アゴラにて》

カムチャッカ半島アバチャ山登頂とフラワーハイキング

上村紀子

7月21日から25日までの4泊5日、日本山岳会・千葉支部創立10周年記念海外登山に参加しました。目指すは「アバチャ山」(2741メートル)、ロシア・カムチャッカ半島の首都ペトロパブロフスク・カムチャッキーの東北40キロほどに位置する活火山です。総勢14名は成田から極東の秘境に挑戦です。

23日、念願のアバチャ山登山。標高2000メートルを日帰りするというハードな挑戦です。7時30分出発。早朝は雲がありましたが、天気は徐々に回復、絶好の登山日和となりました。

ハイマツとハンノキの低木林を抜けると僅かな草原、色とりどりの高山植物が咲いていました。そこから上は岩とスコリア(火山性の砂礫)の無毛地帯。高度を上げるにつれ展望も開けてきました。標高2000メートルで大休止と昼食。目の前には「カリヤーク山」(3456メートル)、山頂まで雲一つありません。仰ぎ見る迫力です。アバチャ山頂へは、まだ標高差700メートル。大きな雪渓をトラバース、小雪渓も2つ横断しました。傾斜はかなり厳しいものです。それに、砂礫が堆積した斜面ですから「三步進んで二歩戻る」といった調子です。2本のストックを支えにして、ひたすら、黙々と登るしかありませんでした。砂礫が黒色から赤茶色になると、山頂もぐっと近くなります。さあ、後ひと踏ん張り。

出発から7時間半、15時ちょうど、アバチャ山頂上に到達。富士山を小さくしたような山ですが、火口を溶岩が埋め尽くしドーム状に盛りあがっています。噴気が上がり、僅かな硫黄臭もあります。「お鉢」はポカポカと温かく、



「山が活着ている」という感じがしました。日本でしたら、当然立ち入り禁止区域になるのでしょうね。広大な谷、万年雪の山々。眼下にはカムチャッカの大自然が広がっています。皆で記念写真を撮りました。15時30分、下山開始。落石を起こさぬよう細心の注意をしながらも、急斜面を一気に下ります。2000メートルからは登りと別ルートを選び、大きな雪渓を下り、20時ちょうど、ベースキャンプに無事戻りました。登頂を果たした興奮からか、なかなか眠ることが出来ません。午後10時半、小屋を出てみると、アバチャ山が、巨大な雪渓も山頂の噴煙も、くっきり見えました。白夜の山塊は神々しいほど気高いものでした。

24日、ヴァチカジェツ山麓に移動。2時間のフラワーウォッチを堪能。湖沼が点在し、アツモリソウ、クロユリ、エゾツツジといった草原の植物だけでなく、ヒオウギアヤメ、モウセンゴケなど湿原の植物も多いのです。地表を埋め尽くす花、花、花。種類も豊富。その見事さに感動、無理算段してでも記念山行に参加してよかったと思いました。

【参加者ひとこと】

坂上光恵 リーダー

参加者の皆さん、お疲れ様でした。皆様のご協力に感謝いたします。千葉支部の皆さんからの一言をいただきました。

小沢けい子

アバチャ山ではとても小さな花々を見ながら少し登ることができ、フラワーハイキングでは高山植物が丁度満開でたくさんの花々を見て感激でした。食事もおいしく、イクラをクレープで挟んで食べたのが美味しかったです。



川島辰夫

海外の山で、かつ標高差 1900m を一日で登って下りるとのこと、不安だったが世界自然遺産カムチャッカの山ということで申し込んだ。結果は大正解。すばらしい、本当に参加して良かった。

自分の足で登って雲が抜けたときの景色は写真では味わえない今まで見たことのない別世界。感動ものでした。また異文化の世界ロシアのスーパーで、いろいろな商品や仕組みを見て回り、買い物を自分でした事や露天風呂でのロシア人との会話(?)も楽しい思い出となっています。



柳川しげよ

カムチャッカへ行くことは、私にとって夢だった。今までに見たこともない雄大な景色、そして限りなく続くお花畑を歩いた。頭の中で描いていたとおりにあった。みなさんありがとうございました。

山崎完治

雪渓の上に赤褐色の山頂を覗かせ、薄らと水蒸気を吐き出しているアバチャ山に登った。

雄大なカリヤーク山に見送られ、一步、一步足を前に進める。赤砂礫の急登ではストックに身を委ね、最後は一本の綱を頼りにたどり着いた。黒い溶岩柱の間



からは硫黄臭とともに水蒸気立ち上り、山肌に腰を下ろすと地熱が直接冷えた体を温め、岩盤浴床のようであった。北斗七星と天の川が横たわり、カリヤーク山の上に北極星が輝き、可憐な高山に咲く花々を鑑賞した。

渡邊信一

駄作の俳句 「山麓に溪水響くアバチャ山」。感想は4点です。

- ① リーダーの安全指導管理に感謝します。
 - ② ガイド(アレキサンドルさん)も丁寧でよかった。
 - ③ 女性陣が9名も参加して、お花畑の花園の気分でした。
 - ④ ロシア美人のいる温泉には、2日間で5回も浸かれた。
- 全て心に何時までも残る楽しい思い出です。

参加者：坂上光恵(L)、安間繁樹、山崎完治、渡邊信一、湯下正子、柳川しげよ、上村紀子、小沢けい子、川島辰夫、内藤照雄、古谷清美、金子久子、外島美智子、椎名キクエ(敬称 略)

大雪溪から白馬岳 8月19日～20日

三田 博

登山口の猿倉は標高 1,236m、今日は白馬山荘まで 1,600m登らなければならない。7時過ぎ、白馬尻小屋で前泊組（高橋・湯下・梶田・平出）と無事合流。あいにく合羽を着ての歩き出しだが、夏山への期待で、みんな元気一杯だ。前日に高橋正彦さんが奥様と白馬入りしていて、山上で会えるのも楽しみ。

歩き始めてすぐに軽アイゼンを付け、大雪溪を一列になって登る。途中、クレバスが大きく口を開けたところもあるが、歩きやすい。初めてアイゼン履く人もすぐに慣れたようだ。休みながら約 2 時間で岩場に出て大休止する。8月半ばを過ぎると雪溪も小さくなる。ここからが長い登りだが、たくさんの花に励まされる。登りながら女性陣は花の写真撮影に忙しい。

12時30分、稜線に頂上宿舎が見えてきてほっとするが、なかなか近づかない。13時30分、ようやく今夜の宿の白馬山荘に到着すると高橋さんが「お疲れさん」と出迎えてくれた。しばらくすると、唐松岳から不帰ノ嶮をやってきた山口文嗣さんも到着した。天気もよくないのでほとんど人は歩いていなかったとの事。難所を凄いスピード、さすがです。



これで無事に全員集合、白馬山荘の「スカイプラザ」にて生ビールで祝杯を挙げる。山の上で集まるって、とても楽しい。賑やかな雲上レストラン



ンに「行った事ないけどヨーロッパの山小屋みたい」と琢子さん。

翌日は雲海が広がり、朝から晴れ。朝食をさっさと済ませ、5時30分に 2,932mの山頂へ。北アルプスの山並みを堪能、遠くには富士山まで見える。白馬岳の標識で若者が馬の被り物して記念撮影していて大笑いしてしまった。ここから三国境、小蓮華山を越えると、白馬大池を眼下に見下ろしながらゆるやかに下っていく。今日は天気も良すぎるからか、雷鳥坂の雷鳥は姿を見せてくれない。

白馬大池で大休止した後、岩ゴロゴロの白馬乗鞍を越える。乗鞍の短い雪溪を下ってからも、大きな岩のルートが続き手こずる。白馬駅から直通の「あずさ」に乗るためには午後 2 時前には榎池高原のバス停に着かなければならない。休憩短め、下山後の風呂も入らず急いだおかげで、無事あずさに乗車できたが、少し慌ただし過ぎた。来年は温泉と地酒を楽しむ、ゆったりした夏山がいいかな。

参加者：三田博（L）、高橋琢子（SL）、山口文嗣、平出正美、湯下正子、梶田義弘、
宮崎美智代、三田芳江（敬称 略）

【参加者ひとこと】

高橋琢子 モレーン、大雪溪、お花畑、ルントヘッカー、離れ山など、目の前に次々と現れる雄大な景色に大感激！

平出正美 山岳会山行、雨の中の登山、山小屋、雪溪、高山植物園等々全てが初めての経験でした。楽しかったです。

湯下正子 初めての白馬ではバテバテで花畑を横目に見ていました。二度と行くことは出来ないと思っていましたが、今回は皆さんの御蔭で花畑を満喫出来ました。有難うございました。

梶田義弘 初めての北アルプス。登り初めてす

ぐに、千葉の山とは違うと思ひ知りました。

何度も挫けそうになりながら頂上に立てたのは、同行の皆さんの励ましのおかげです。ただただ感謝。次はもっと簡単なアルプスに登りたいと思います。

宮崎美智代 初めての白馬。天候にも恵まれ、大雪溪、お花畑、白馬岳全て期待以上の景色で、感動でした。

三田芳江 急峻な大雪溪を登った後に待っていてくれたお花畑、天空に続くような稜線歩き。白馬2度目でもやっぱり感激！

大小山

9月10日（日）

香高真奈美

JR 宇都宮線小山（おやま）駅にて両毛線に乗り換えて6つ目「富田駅」。快晴の朝10時に皆集合して簡単な自己紹介の後出発。しばらく平地を歩く。民家の塀や蔵は立派な大谷石造りのところが多い。「ワカエビス」という酒蔵を過ぎると見えてきた山肌に白い「大小」の文字がある。あれが「大小山」だ。

この山は放散虫といった海の珪質プランクトンが降り積もってできた「チャート」という岩の山だ。「放散虫」は約6億年前にうみに出現した単細胞生物で、その死骸の殻が海底に溜まったのが「チャート」。1mm出来るのに一千年かかるという。そして、その海底が長い年月のプレートの動きで山になっている!!

さてその岩石にはたての割れ目一節理一がありとても歩きにくい。12時20分、頂上の少し下の木陰の広場でお昼。そして少し登り頂上（381メートル、妙義山という呼び名でもある）にて記

参加者：三木雄三（L）、岩尾富士夫（SL）、小林義亮、杉本正夫、高橋正彦、鎌谷繁、塩塚生二、新井好夫、竹園清孝、梶田義弘、梶田天兵、高橋琢子、山岡磨由子、井上元、山口文嗣、廣村恵美子、甘楽敦夫、吉田明子、鈴木操、香高真奈美（敬称 略）

念写真を撮る。眺めも良い。もう一つのピークをすぎて下山しながらチャートの石を一つ拾う……この石6億年！私なんて小さなものだな、というのが感想です。



帰り道、鳳仙寺というというお寺の前のお店みんなの待望のかき氷とコーヒーを堪能する。この日は岩石を愛してやまない人、仕事で長い間山に行けなかった人、会社の仲間同志、千葉支部の新しい仲間、そしてこの足利山行を楽しみにやってきた人、総勢20人が参加した。帰る頃には打ち解けて親睦も深まった。

表銀座縦走～大天井岳 満天の星空～

9月20日(水)～23日(土)

齋藤米造

光岳山行が台風18号で中止となり、急遽決まった表銀座縦走山行。天候に恵まれ、またとない至福の山行となった。

9月21日 中房温泉 快晴 10℃ 6:15 出発。第2ベンチを過ぎる頃から燕岳特有の白い花崗岩が砕けてザラメ状に混じった登山道を行く。ここから第3ベンチまで、早くも両足の筋肉が酸欠状態になり、大天井までたどり着けるか不安がよぎる。10:42 燕山荘着。燕岳は山本さん一人で往復。



大天井岳へ向けての北アルプス大展望コースは圧巻であった。“何と贅沢な時間だろう”と思わず呟



いた。正面に槍・穂高、遠くに立山・剣、鹿島槍の双耳峰も美しい。15:17 大天荘着。雷鳥の群れを追いかけながら時間を過ごす。

大天井岳の夜は快晴。ヘッドランプを点灯して山頂に向かう。ここは満天の星空の世界。前穂の上から天頂に向けて天の川が流れる。大キレットの上にはさそり座が。



9月22日 << 荘厳な槍・穂高の夜明け >>

前日から大天荘に宿泊していた40人程のNHK

参加者：山本哲夫(L)、宮崎美智代、齋藤米造(敬称 略)

BS『山女日記』ロケ隊の“本番!”の掛け声を横に聞きながら、6:55 出発。

東鎌尾根は、はしごの連続で慎重に進む。ルートはしっかり整備されていて、問題はない。

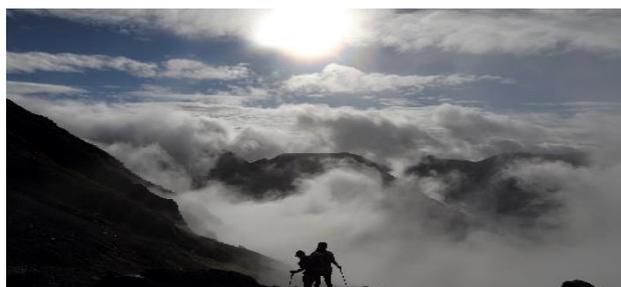


槍の穂先がグングン近づいてくる。ヒュッテ大槍を過ぎると北鎌尾根の急峻な岩峰群が目前に迫り、しばらくすると槍が岳山荘着 14:43。ガスがかかり始める中、ザックをデポして槍ヶ岳山頂へ。槍は初めての宮崎さんも岩肌の感触を楽しみながら、快調に登る。頂上直下 85 度のはしごを登りきると山頂に出た。



9月23日 濃いガスに包まれ、槍の穂先が見えたのはほんの一瞬だった。6:15 出発、槍沢を一気に下った。上高地着 14:00。

ちょうど50年前に初めて登ったルート。もう二度とは登れないと諦めていただけに、夢が叶い喜びが湧いてきた。



<< 槍沢を下る >>

晴香園の富士山お中道山行に参加して

8月2日（水） 湯下正子

晴香園の子供たちと富士山お中道山行に参加した。リーダーはお中道へ50回は行っているという三木支部長。なんとか一日もってほしいという願いもむなしく、河口湖駅からのバスが動き出したころから雨は本降りになった。「奥庭入口」のバス停を降りたら土砂降り。バス停前のトイレの屋根の下で全員雨具を着るのに必死で、自己紹介も何も後回しになった。雨が小降りになればという思いから、奥庭荘へ行って雨を凌ぐことになった。途中、三木さんの説明を聞きながら樹木から垂れ下がったサルオガセがなんとも不思議な形だった。コケモモも一面に広がっていた。下りきって着いた奥庭荘ではキノコ汁やけんちん汁の温かさでひとまず休めたのでホッとした。雨は止む気配がなく食事も終わったので、奥庭を一周する。雨の中お庭へ戻る坂道を登った。食事の後のせいか体が重く15分くらいのスバルラインまでの登りにハアハアしてしまった。いよいよお庭の入り口から登ってお庭へ。カラマツの偏形樹の説明を熱心に聞きながら、子供だけではなく大人にも質問が振られる。5年ぶりで参加された晴香園の箱田施設長にも質問が及び和やかな雰囲気になった。いつもは職員だけだったけれど、施設長の参加は子供たちに安心感がみられ、時々参加して欲しいと思った。

参加者：晴香園児童6名、職員3名

千葉支部：三木雄三、山崎完治、佐藤啓之、高橋琢子、飛田徳子、荒木志津子、國宗文、古川真澄、湯下正子（敬称 略）

お中道に入り平坦なハイキングコースを雨の中歩いたが、子供たちは元気だった。時々、「ここは本当に富士山なの？」と聞く子もいたが、楽しみにしていた富士山を歩いているのに富士山らしい山



が見えないのは残念だった。噴火の後のガレバや2016年のスラッシュ雪崩によってダケカンバが根こそぎになったり、横倒しになったりした光景は子供たちにも自然の恐怖を与えたことだろう。雨の中、大沢崩れまで行くことは出来なかったけれど、ハクサンシャクナゲが見事に咲いていてまさにシャクナゲロードを歩いてから五合目のバス停に向かった。

晴香園の高峰高原一泊山行について

山崎完治

夏休みも終わりの8月28日、29日、晴香園児童との自炊生活をしながらの一泊山行に、千葉支部から4人が参加した。

一日目（高峰山登山と山小屋宿泊体験）

地元のスーパーで食材等を購入、園児達乗ったバスを待つ、約20分遅れで到着したバスから降りる園児は皆疲れ切った足取りだった。バスに酔った子もいたが、爽やかな風に癒されすぐに元気を取りもどす。

午後3時坂上リーダーの引率で高峰山登山に向



かう。登山道の入口の鳥居で、雪の季節は鳥居の上を登るとの説明に、皆目を輝かせる。リーダーの指示を守りながら先を競うように一気に展望台まで登る。ここからは平坦な尾根筋道で、マツムシソウ等々を鑑賞しながら高峰神社に到着。生憎の曇り空であったが、うっすらと北アルプス等を眺め、記念写真を撮って下山する。小走り状態で下山し、ホテルで荷物を受け取り山小屋に向かう。

山小屋では、子ども達がそれぞれの分担に従い、手際よくカレーを作り、楽しい夕食です。美味しい、美味しいと、男の子は3回もおかわりする。

千葉支部参加者：坂上光恵、湯下正子、山田紀夫、山崎完治（敬称 略）

翌朝6時起床を約束して9時に就寝する。

二日目（黒斑山登山）

朝6時起床、男の子はストーブ用の薪の補充や掃除、女の子は食事の手伝いと忙しい中にも楽しい会話が飛ぶ中、朝食を終え8時に小屋を出発し



て登山口に向かう。ホテルの別室に荷物を預けて前日と同様坂上リーダーを先頭に黒斑山を目指す。出発時は木々の枝先からキリ露が小雨の様にしたたり落ちていたが、子ども達は一生懸命に登る。避難小屋を過ぎるあたりから、願いが届いたのか空が少し明るくなり、トーミの頭近くでは風が強かったが浅間山がうっすらと望むことができた。午前10時40分黒斑山頂に到着、休憩をとった後帰路は中道を下山する。登山口に近づくほどに空は明るくなり、午後1時前ホテルに到着した時には薄日が差してくる。もう少しゆっくり登れば、雄大な姿を見ること出来たのにと悔やむ黒斑山登山であった。

駐車場で解散、子ども達はホテルの日帰り温泉を楽しみ、昼寝をしてからバスで帰路に着いた。

錦秋の尾瀬山行に参加して

山崎完治 香高真奈美

10月7日(土)から10月9日(月)の3日間、日本山岳会山行委員会主催の「錦秋の尾瀬山行」に参加者した。

第一日(東武日光駅から長蔵小屋へ)

午前11時、東武日光駅に16人が集合(千葉支部からは上村紀子、石岡慎介、三田博、三田芳江、山口文嗣、香高真奈美、山崎完治の7人が参加)貸し切りバスで御池に向かう。桜枝岐村を過ぎ、ブナ林では紅葉が始まり、錦秋の中をバスは登る。御池でシャトルバスに乗り継ぎ沼山に午後3時に到着、支度を整えて長蔵小屋を目指す。途中大江湿原で長蔵小屋の女将、平野さんの案内により植物学者で尾瀬をこよなく愛した武田久吉氏の記念碑等を見学、長蔵小屋に入る。夕食後、談話室で平野さんから、尾瀬を訪れた方たちの貴重なお話を伺いながら酒を酌み交わし親睦を図り、翌日に備え就寝する。

第二日(1班燧ヶ岳登山; 山崎完治)

1班には、千葉支部から三田さんご夫妻、香高さんと私の四人が参加し、総勢8人で午前5時45分朝食、午前6時30分散策班に見送られ、朝靄の中を田代湿原の幻想的な景観を横目に、第4回全国登山体育大会を記念して長蔵小屋二代目の平野長英さんが開いた長英新道分岐を前夜の雨で所々に水たまりのある泥道のほぼ平らな原生林の中を展望もない中を黙々と歩く。しばらく進むと眼下にきらきら光る尾瀬沼が眺望、尾根筋をたどり、笹原のなか急登を上り梯子階段を登り詰るとミノブチ岳である。沼を取り囲む山並みを確認して、

ナデッ窪から急斜面を上り詰めると俎嶺である。元気な三田夫妻以下4人がザックをデポして柴安嶺に挑む。大休憩した午前11時御池登山口目指し下山、午後2時30分を目標にがれ場を下り、木道に足を滑らしながら下山、尾瀬散策班の出迎えを受け、定刻に全員下山しバスにて宿泊場所である「湯の花温泉」でイワナの骨酒を酌み交わしながら楽しい一夜を過ごした。

第三日(帝釈山・田代山; 香高真奈美)

6時に「山楽」の心尽くしの朝食を頂く。蔓紫と湯葉のお浸し、きゃらぶき、大きななめこの味噌汁、そして舞茸ご飯。宿の主人に見



送られバスに揺られる事一時間半で1798メートルの馬坂峠登山口へ。そこから一気に整備された木の階段や石の間を登りつめ帝釈山頂(2060メートル)に到着!

前日は別々なコースだった方たちとも一緒に見事な眺めを楽しんだ。皆で記念撮影した後、田代山へと向かいその頂上湿原も満喫した。そしてまわりの山々の紅葉に感動しながら猿倉登山口へ無事到着。貸切バスにて日光駅へと向かい充実の山旅は終わった。

こんにちは

早速 岩手山の山行に

三品京子

この度、千葉支部に入会致しました三品京子です。長生郡在住です。

3年前より友人達と関東近郊でハイキングを楽しんでおります。そろそろ登山にチャレンジしたいと思っていたところ、日本山岳会のお話を伺い入会させていただくことになりました。

早速9月5日、吉野聡さん山田紀夫さん平出正美さん3名の岩手山山行に参加いたしました。

9月5日(火)4時起床、窓を開けると眼下には雲海、空には星が輝き雲の無い事がわかる。宿で用意して頂いた朝食のお弁当を食べ、お昼のおにぎりをザックに詰め5時レンタカーで柳沢コース登山口馬返しへ向かう。

6時登山スタート、先頭は山田さん次に私そして吉野さん最後尾に平出さん4名のメンバーで岩手山山頂を目指す。

深い森の中へ、ゆっくりとした足並みで一合目へ向け歩を始める。

途中水分補給しながら40分程で到着、休憩後二合目途中で新道と旧道の分岐点を旧道に入る、旧道は山肌一面に溶岩流で出来た登山道、溶岩石はもろく浮いているので這い上がるように登って行く。途中一息するため振り返ると今登ってきた道が見える、顔を上げれば頂上付近が確認出来まだ先は長いことがわかる。

七合目、旧道と新道の合流で溶岩道に変わり深緑の登山道を登る、八合目避難小屋に10時半着。ザックをおろし休憩、山小屋の前の水飲み場で手を洗いそのまま一口、冷たい水をいただく。岩手山山頂アタック開始、木々の背が低くなり景色が広く眺めの良い尾根道を行く。



外輪山到着11時半、裾広がりであざあざした噴出物の道、噴火口を眺めながら歩き山頂に到達する。頂上は雲一つない晴天、姫神山・八幡平などの山々が一望でき、肌にあたる風は冷たいが気持ちが良い。

昼食を済ませ下山を始める。七合目からは新道へ森林の中を慣れないストックを使い下る。登りとは違う滑りやすい足元に注意しつつも尻餅を1回、4時間かけ出発点の馬返しに無事下山。

今夜の宿泊先松川温泉へ、硫黄温泉で今日一日の疲れを流す。夕食は地ビールで乾杯、骨酒を飲みながら反省会、長い一日を終える。最後になりますが登山初心者の私をサポートしてくれた三名の晴れ男に感謝です。

日本百名山は無理ですが、出来るだけ多くの山を登っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

寄稿

北欧で見たオーロラ

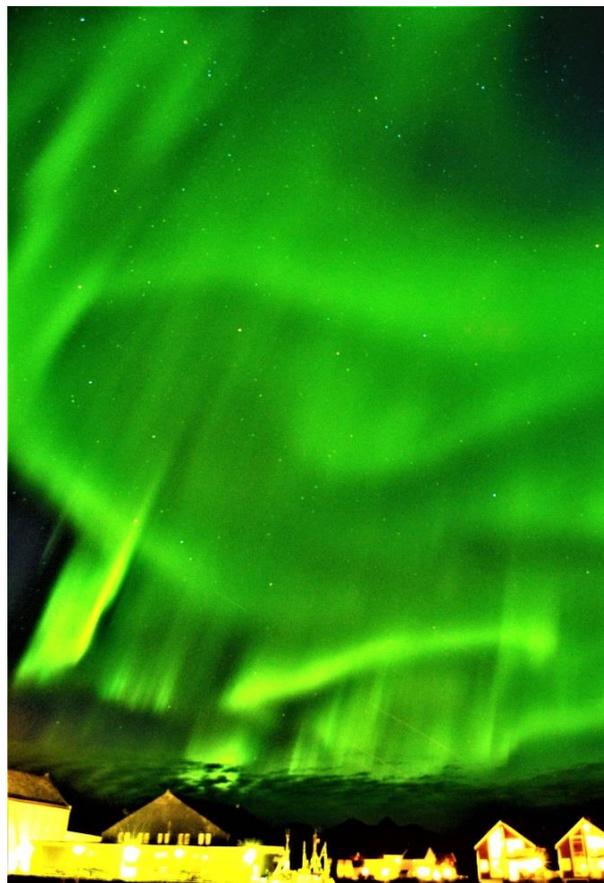
小疇 尚

2017年9月6日、久しぶりに太陽表面で通常の千倍以上という大規模な太陽フレアが発生し、11日にも2度目が起きて大量のプラズマ粒子が地球に降り注ぎました。それによってオーロラが出現し、南極昭和基地（南緯69度）では活発に動くオーロラが観測され、カナダやフィンランド北部でも観察されたことを後で知りました。たまたま北欧旅行中にその大オーロラに遭遇しましたので、その様子をお伝えします。

実は35年前、スカンディナヴィア山地北部を一人で訪れて山々を巡ったことがあり、今はホテルに変わったその時の小屋に泊まって「昼間はハイキング、夜はオーロラ観察」という旅行社の宣伝に懐旧の情を覚えてツアーに参加したのです。この付近は調査などで何度か訪れましたがオーロラに遭遇したことはなく、今回も運が良ければとは思いう程度で、それよりも懐かしい山々との再会を願っていました。

9月11日、昭和基地と同緯度帯のスウェーデン北部のアビスコ・ツーリスト（北緯68度）着。一新された食堂での夕食時から空を覆っていた雲が消え始め、10時を過ぎたころ星空にオーロラが出現しました。それははじめぼんやりした白い一条の筋でしたが、やがて明るさを増して西の山入端からヴェールのように広がり、北斗七星をおおってゆるやかにひるがえり始めました。時折その裾が黄色く輝いて、さながら羽衣をまとった天女の華麗な舞を見るようでした。

つづく2日間は山や湖畔を歩きましたが、曇天でオーロラは駄目でした。天気が好転した9月14日、ノルウェー北西部のスヴォルヴァー（北緯68度）に、懐かしい山々を車窓から眺めながらバスで移動。夕食後外へ出ると、すでに西の空に薄い



オーロラが現れていたので、身支度を整えて観察適所へ急ぎました。

夜の帳が下りるとオーロラは明るさを増すとともに、全天の大半を覆うかと思うほどに広がって激しく動き始め、最盛時には天頂から放射状に降り注ぐ二重三重の青白い光のカーテンが渦を巻き、壮麗だった前回とは違って畏れを感じるほどでした(写真)。やがてその端がちぎれて幅広一本の帯になり、さらにそれが広がって幾多の星をおおう薄いヴェールに変わって、見ていると天の川に吸い込まれるような不思議な感覚におそわれました。大規模な太陽フレアに旅程が重なる幸運に恵まれて、壮麗な宇宙の営みを見ることができ感動しました。

お知らせ

●会員の動向

新入会員	M.Kさん	長生郡	(16272)
	S.Yさん	大網白里市	(16278)
新入会友	K.Yさん	山梨県上野原市	(転居に伴い変更)
	T.Sさん	市原市	

●第11回 四支部（千葉、茨城、栃木、群馬）合同懇談会のご案内

今年の四支部合同懇談会は栃木支部が主催して下記により開催します。
多くの会員、会友の皆様の参加をお願いします。

期日 2018年2月17日（土）～18日（日）

会場 那須塩原市塩原公民館 13:00 受付開始

宿泊 塩原温泉「明賀屋本館」 那須塩原市塩原 353 ☎0287-32-2831

講演会 「（仮題）ツキノワグマ未知の姿」 講師 横田博氏

山行 新湯富士：雪の多い地域、完全な冬山装備

観光 木の葉博物館等（予定）

参加費 15,000円（1泊2食、弁当付き）

問合せ及び申込は12月20日（水）までに高橋琢子事務局長あて
支部日より参照 Tel.090-3684-9822

●「登山保険に加入を！！」

中高年登山者の増加にともなって、遭難者数もうなぎ上り。

私は大丈夫!とっていませんか？

ベテランでも事故は起こります。

改めての確認です。

千葉支部の会員・会友ともに登山保険必ず加入をお願いします。

もし万一、未加入であれば下記を参考として至急加入をお願いします。

1. 「日本山岳会」団体登山保険（東京海上日動火災） 0120-161-808
2. 「日本山岳協会」山岳遭難・搜索保険（三井住友海上火災保険） 03-5958-3396
3. その他、山岳用品店などでも独自の保険有り。

役員会の報告

8月報告 8月22日(火) 市川アイリンク

出席者 上村、坂上、鈴木、高橋(琢)、高橋(正)、能美、三木、三田、安間、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉永、吉野 16名

- ・10周年記念式典に向けて
参加者及び来賓の確認(会員59名、来賓11名参加予定)
式典及び祝賀会の段取り及び役割分担の確定
- ・カムチャッカ遠征(7.21~7.25)報告 14人参加、全員アバチャ山登頂、無事帰国

9月報告 9月19日(火) 市川アイリンク

出席者 上村、坂上、鈴木、高橋(琢)、高橋(正)、三田、安間、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 13名

- ・10周年記念式典報告 8月26日船橋グランドホテルにて
67名参加(来賓11名、会員47名、会友9名) 資金的には黒字を出すことが出来た
- ・支部の会員増強について 検討課題

10月報告 10月17日(火) 市川アイリンク

出席者 上村、坂上、高橋(琢)、高橋(正)、三木、三田、安間、山口、山崎、山本、湯下、吉野 13名

- ・支部長報告 (全国合同会議山岳事故の防止について、川島会員の遺留品の発見)
- ・事務局長からの連絡(齊藤米造さん、三品京子さん会員へ推薦)
- ・10周年記念事業収支報告
- ・今後の周年事業の取り組みについて
- ・支部だよりの進捗状況

編集後記

「北欧でみたオーロラ」の写真に驚きました。オーロラとは遙かかなたの天空のページェントだと想像していたものが、このように間近で壮大にみられるものだとは思っていませんでした。まさに、自然の神秘に感動したところです。大変お忙しい中、ご寄稿いただいた小疇先生有難うございます。

支部創立10周年記念式典が盛大に執り行われました。いま、我われは支部10年間の歴史と、10年後、20年後の未来の“つなぎ目”にいます。これからも山を愛し、お互いの立場を尊重して千葉支部の絆を大切にしていきたいと思えます。(S・Y生)

山 行 の 予 定

(12月23日以降)

行き先	日 程	申 込 先	締切	備 考
忘年山行 三ツ峠	12.23 (土) 12.24 (日)	山本 哲夫 支部だより参照	12.10(日)	現地集合
高尾山系景信山	1.6 (土)	高橋 正彦 支部だより参照	12.27 (水)	ヤコ ^コ 沢を登り東尾根を下る初級者向コース
新年山行 江月水仙ロード	1.13 (土)	山口 文嗣 支部だより参照	1.6 (土)	スイセンの香り漂う里山歩き
笹尾根	1.20 (土)	湯下 正子 支部だより参照	1.6 (土)	公益事業 晴香園
郡界尾根第17回 18回 19回	12.16 (土) 1.28 (日) 2.24 (土)	山口 文嗣 支部だより参照	12.7 (木) 1.18 (木) 1.15 (木)	東大演習林から内浦山県民の森へ。ゴールの“おせんころがし”も間近
箱根・湯坂路	2.4 (日)	三田 博 支部だより参照	1.21 (日)	古道のんびり歩き。コースタイム4時間
伊豆大島 三原山	3.4 (日) 3.5 (月)	三田 博 支部だより参照	1.31 (水)	1泊で山と温泉と椿まつり
鍋割・塔ノ岳	3.10 (土)	山本 哲夫 支部だより参照	2.28 (水)	見所沢山有り
高水三山	3.31 (土)	三田 博 支部だより参照	3.24 (土)	奥多摩入門の山 (読図練習)

*電話での問合せは、支部長^{み きゆうぞう}三木雄三宛てにお願いします。(TEL 090-4393-3515)

印刷

三陽メディア株式会社